

朝倉研究室 引継ぎメモ

<飲み会について>

- 学部生・大学院生・OGでの飲み会は、年2回（夏と卒業式シーズン）に開く。
- 夏の飲み会は、3年生の歓迎会がメインとなるため、主催は4年生。
- 卒業シーズンの飲み会は、4年生とM2の追いコン。主催は、3年生。
- 日程調整は早めに！まず、朝倉先生とメインとなる学生の都合で調整しますが、できるだけOGが参加できるよう金・土曜日で検討する。
- 連絡も早めに！幹事が決まったら、まず学部生にLINEやメールで連絡を取る。OGには名簿を見て、一斉送信メールを送り、幹事が出欠を取るようにする。
- お店は、国分寺駅周辺が無難。朝倉先生と相談して決める。（みやじま亭、あひるのたまご、我楽多家など？）
- 予算は、3000～3500円。（2014年は平均して、3500円だった。）

<ゼミについて>

- メンバー：基本的に3・4年生で行う。4年の卒業研究の進行具合によっては、学年ごとのゼミを開くこともある。
- 回数：4年生になってからは、平均して一ヶ月に一回。4年生の研究テーマが決まる前までは、みんなでも討論することに意味があるが、調査の実施・分析あたりまでは個人の作業になるため、4年生は個々で先生を訪ねることになる。そのため、4年が調査をし始める7月後半～11月くらいまでは、4年は個人的に先生に指導してもらいに行き、3年生は自分たちだけのゼミを開くこともある。だが、この時期も1ヶ月に1回は全体のゼミを開きたいものである。
- 日程：毎回のゼミ終了後に決める。日程の連絡は、LINEやメールですするため4年生のなかで、連絡係を決めておく。
- 発表内容：4年生はもちろん、自分の卒業研究の内容である。メインは、研究テーマをどうするか。自分の興味のある現象について、先行文献（論文や関連図書など）を参考にし、自分の考えや疑問を明確にて発表する。（※研究疑問を整理していくと、研究デザインが見えてくるので、それまではゼミ発表と自主勉強を繰り返す。）3年生の時期は、次第に、テーマを絞っていくように興味・関心のある領域の文献を紹介することから始まる。
- 取り組み方：他の人の発表を聞くことも大事。先生の言うことは難しいこともあるだろうが、大学の講義や自主勉強、実習やボランティアなどの今までの知識や経験とつなげて考えることを意識したり、先生の話している構造を考えたりすると、少し徐々に理解できるようになるはず。OGの言葉を借りると、朝倉研のゼミは、“哲学する時間”である。思考をやわらかくし、考えようとするのが大切・・・。
- 発表形式：レジメを配り口頭発表する。卒論表会の直前には、発表のプレをする。

<卒業研究について>

卒論提出までのざっくりとした流れ

時期	卒論	学科行事
～5月	研究テーマの決定（理想）	5～6月 応用実習
6・7月	調査方法の検討、準備、調査	7月応用実習発表会、教員採用試験、オープンキャンパス
8～10月 (夏休み)	調査（インタビュー調査、質問紙調査、 文献調査 など）	8・9月 教員採用試験2次 9月選択実習
11月	分析（M-GTA、統計 など）、論文執筆	
12月	論文執筆	学生交流会
1月	論文提出、卒論発表準備	いのちの講座
2月	論文修正、卒論発表会	卒論発表会、追いコン
3月	製本 → 終了！	卒業式

- 1年間の流れを見てわかる通り、4年生は忙しい。自分で計画的に進めたほうがいい。
- 朝倉研の学生は毎年、提出後にも修正を繰り返し、できるだけ洗練されたものを製本する。また、卒論発表もしっかり準備して、望むものである。提出したらからといって、終わりではない。
- 過去の学生のテーマは、HPを参照する。現物は、4階演習室にある。
- 卒論発表会の準備は基本的に4年生が自分たちで行う。

<修士論文について>

- ゼミは、テーマが決まるまでは全体で行う。それぞれ調査し始めたら、個人的に先生とゼミする。
- テーマ発表会がM1の12月に、中間発表会がM2の7月下旬にある。
- 投稿論文や学会発表は、積極的にを行う。
- 論文を投稿すると、女性は補助金がでる制度を活用するとよい。

<その他>

- HPに更新するための写真を撮る係りがいればよいかも。
- OGとは積極的にコミュニケーションを。OGも現役生徒関わりたいと思っている。縦のつながりは両者にとって意義があるはず。
- 夏のオープンキャンパスでは、企画・運営をぜひとも積極的に引き受けよう。また、受験志望者と関わることで、自分の体験を振り返ることになる。また、将来のゼミ後輩をゲットできることも。